

平塚駅周辺地区将来構想の進捗



平塚市

2026年2月9日（月）

本日のプログラムの趣旨

将来構想が目指しているもの（再確認）



第2章 まちづくりのコンセプト

2. まちづくりのコンセプト

平塚駅周辺地区をみんなのリビングに

～充実した日々の中にときめきを感じられる
それぞれが居心地の良いまちづくり～

住む人、働く人、遊びに来る人、事業を始める人など、誰もがそれぞれのお気に入りの空間や体験を見つけることができるように、平塚駅周辺地区を家の中で家族が集まり、くつろぎ、様々な目的に合わせて過ごす「リビング」に見立てます。

平塚駅周辺地区では、市民、事業者、行政が連携して多様な活動、交流が展開される空間や仕組みを地域資源や多様な人材、新技術などを活用して創出することで、様々な人が快適に安心して過ごし、充実した日々の中にときめきを感じられる居心地の良い「リビング」のようなまちを目指していきます。

平塚駅周辺地区での過ごし方

『くつろぐ』



コーヒーをテイクアウトしてベンチで休憩

『遊ぶ』



チャレンジショップでクラフト体験

『集まる』



商店街のイベントに参加

『食べる』



マルシェで食事

『働く』



託児所付のコワーキングスペースで
リモートワーク

将来構想の実現は、市だけでは難しい。



それぞれが異なる
立場・役割・強みを
持っている

これまでのまちづくりでは…

- それぞれが個別に頑張っている
- 情報共有の機会が限られている
- 連携したいが、きっかけがない
- 継続的な関係になりにくい

もったいない！

点の取組みはあるが、線や面の連携が生まれにくい

そこで必要になる「対話の場」

関係主体が、

顔を合わせ、取組みを知り、役割を考える継続的な場が必要

POINT!

- ✓ いきなり一緒に何かをやる場ではない
- ✓ 正解を決めたり、反対する場でもない
- ✓ まずは、「知る・考える・つながる」場

(仮称) 平塚駅周辺地区まちづくりサミットは…

将来構想を実現していくための連携づくりの場

- ✓ 将来構想を共有する
- ✓ 取組みや課題を持ち寄る
- ✓ 役割分担の可能性を探る
- ✓ 次の一歩につなげる



まちに関わる団体同士でまちづくりを一緒に考えて考える

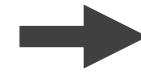
今日のまちづくりサミットの位置づけ

第2回まちづくりサミットを3つのキーワードで表すと…

- ① 将来構想を踏まえ、
- ② 実際の実取組みを共有し、
- ③ 連携の可能性を具体的に検討



将来構想の進捗報告



**参加団体同士の
意見交換ワークショップ**



**次につながる下準備として、
どう役割分担できるかを一緒に考える回**

【ウォーミングアップ】 まちづくりサミットの名称

平塚市案① まちづくりファクトリー

- 「ファクトリー」は、主に「工場」を意味する英単語で、機械を使って製品を生産する施設を指しますが、ここでは将来構想の実現に向け、**様々な取組みをビルドアップするための場（工房）**を意味します。
- 本会議に参加した団体等が**それぞれの立場で機能を担い**、様々な取組みを組み立てていくイメージです。

平塚市案② まちづくりセッション

- 「セッション」とは、目的を持った「活動期間」や「集まり」、「一連の活動」を指し、分野により具体の意味が異なります。IT分野では**通信の開始から終了**まで、Web制作では**サイト閲覧におけるユーザーの一連の活動**、音楽では**即興演奏**を行う場、会議では**特定のテーマを議論する時間枠**などを意味します。
- 本会議に参加した団体の**一連の活動が生まれること**や**想定外のアイデア**、そして**それを形にするための試行錯誤**が起きるイメージです。

平塚市案③ 平塚駅周辺地区アイデアスープ°

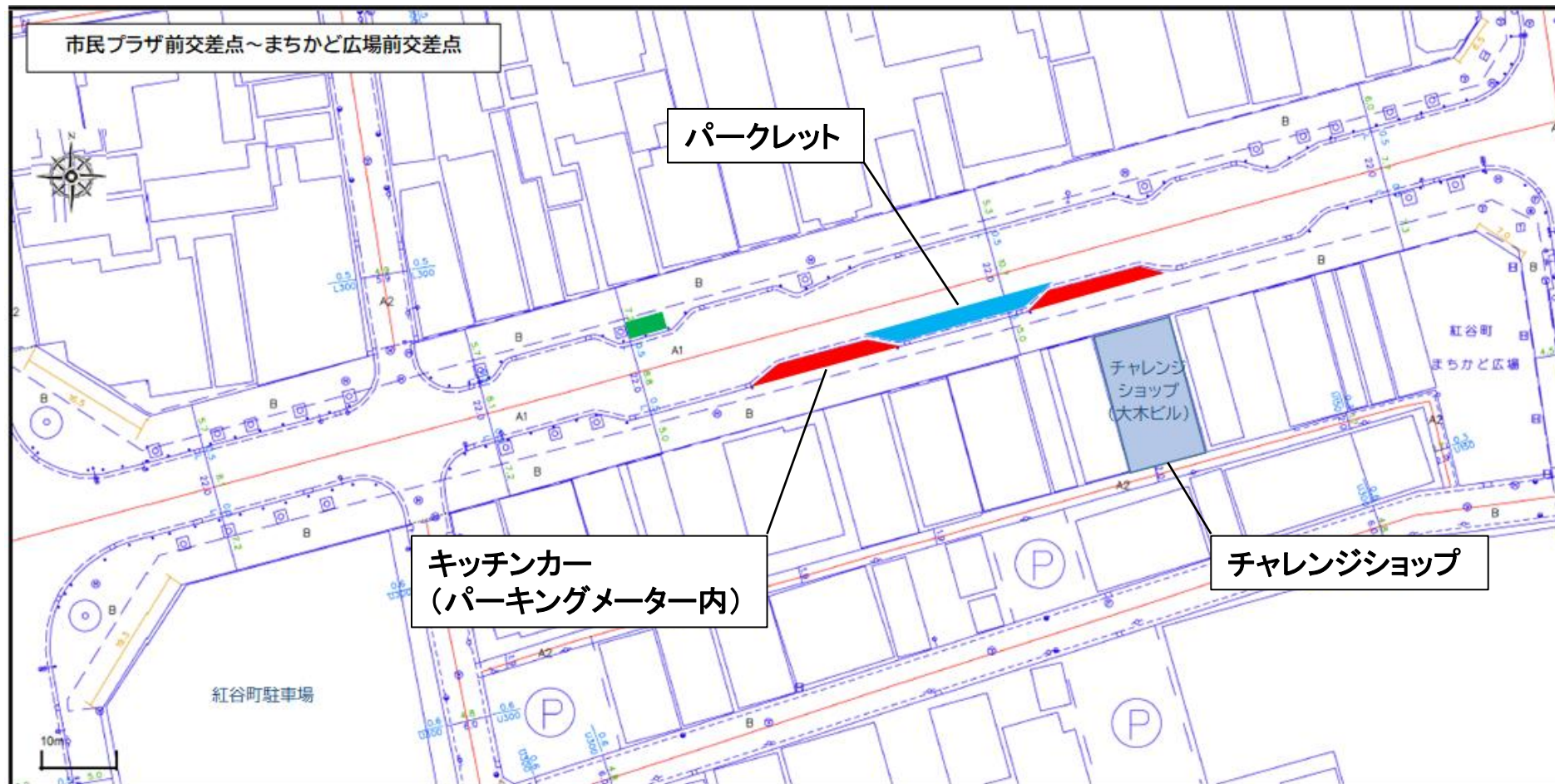
- 会議を料理（スープ）に例えます。
- 参加する様々な関係主体により、平塚駅周辺地区のまちづくりに関わる
リソース（素材）を用意し、混ぜ（連携）、煮込み（議論）、味付け
（アレンジ、整える）していくことでまちづくりを進めていく場となるイメージです。

平塚駅周辺地区将来構想の進捗

令和7年度の市の取り組み

社会実験「みんなのリビング in スタモ」

- ◆ 歩道上にパークレット（椅子やテーブル）を設置し、キッチンカーや近隣の店舗などと一体で活用することで、道路に必要な機能を検証するための社会実験を実施。



令和7年度の市の取組み

社会実験「みんなのリビングinスタモ」



令和7年度の市の取組み

社会実験実施 「みんなのリビング in スタモ」

効果測定の結果【湘南スターモール】

平塚駅周辺地区将来構想のコンセプト「平塚駅周辺地区をみんなのリビングに」の実現に向け地区が多機能なまちになるよう、次の5つの評価項目を設定し効果測定を行いました。

アンケートの回収数 パネル：137件 WEB：68件 紙：108件 合計：313件

パークレット利用人数 10/12(日)：153人(囲碁まつり) 10/20(月)：48人(平日・雨上がり)

【評価①】 将来構想に示すまちづくりに合致しているか。

☞ 「飲食」・「買い物」のアクティビティには多くの票が集まったが、「働く」は集まらなかった。

【評価②】 歩行者の交通に影響なく空間整備ができるか。

☞ 交通量調査の結果、パークレットを設置しても、歩行に支障はなかった。(4.04人/m・分)

【評価③】 来街者のニーズに合った空間はどのようなものか。

☞ ベンチの向きは「歩道向き」、道路に必要な機能としては、「日陰」を望む声が多かった。

【評価④】 商店主の協力を得て維持していくことができるか。

☞ 滞留空間空間が必要という意見は多いが、本設時は、地域と相談しながら、適切な場所に整備していく必要あり。

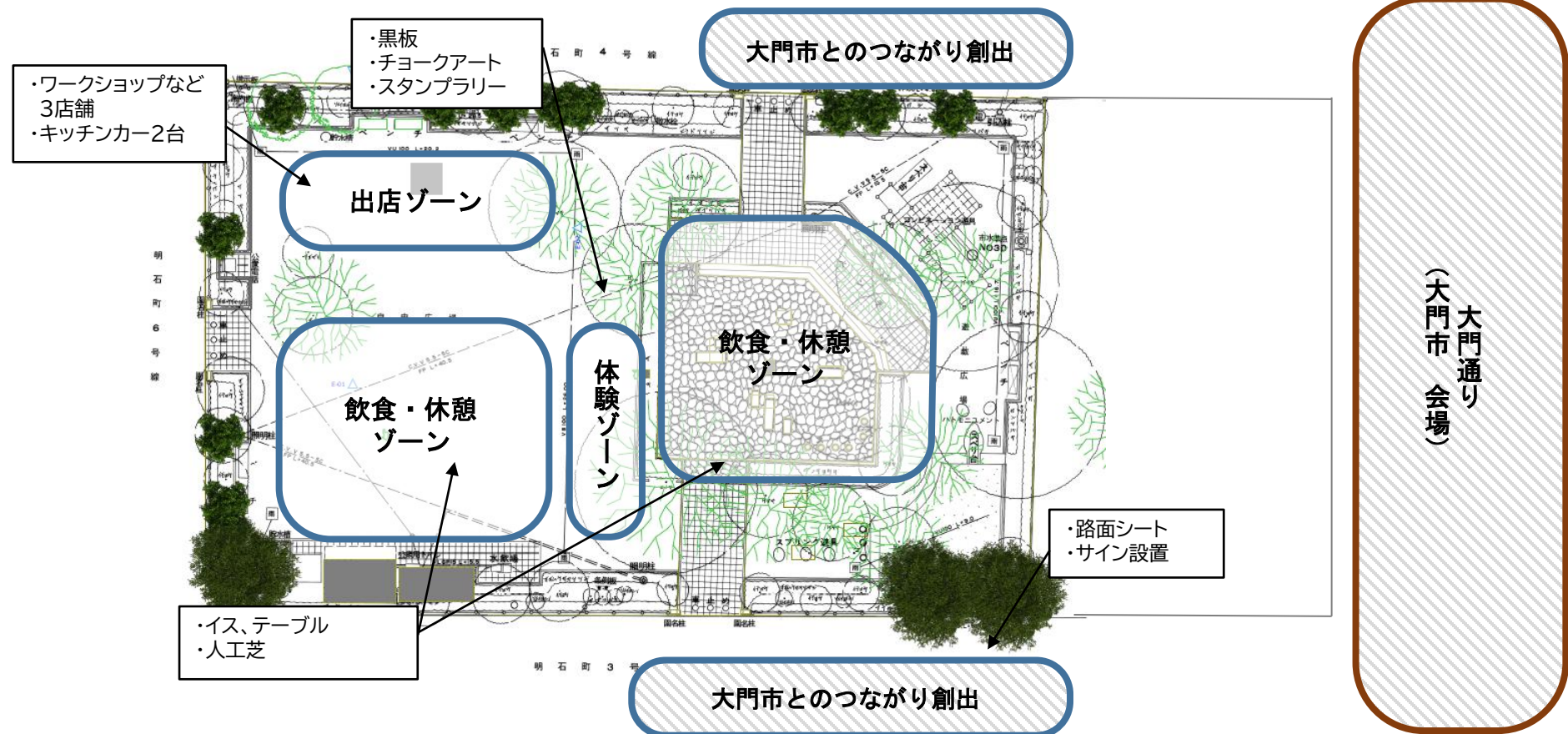
【評価⑤】 新規出店を誘導するためにはどのようなことが重要になるのか。

☞ チャレンジショップのような機能を求める声は多い。また、人通りが必要であるという意見が多かったが、出店者自身の努力も必要との意見があった。

令和7年度の市の取組み

社会実験実施 「みんなのリビング in はと公園」

- ◆ 大門通り(道路)で開催される市(マーケット)に併せて公園内にもキッチンカーや店舗などを設置するとともに飲食や休憩できるスペースを設け、公園に必要な機能を検証するための社会実験を実施。



令和7年度の市の取組み

社会実験実施 「みんなのリビング in はと公園」



令和7年度の市の取り組み

社会実験実施 「みんなのリビング in はと公園」

効果測定の結果【大門市】

平塚駅周辺地区将来構想のコンセプト「平塚駅周辺地区をみんなのリビングに」の実現に向け地区が多機能なまちになるよう、次の5つの評価項目を設定し効果測定を行いました。

アンケートの回収数 パネル：35件 WEB：5件 紙：85件 合計：125件

新宿公園の利用人数 11/30(日)：528人【大人：371人、子供：157人】（大門市）

【評価①】 滞留空間ができると、どのような活動が増えるか

👉 イベント時のため、子育てについて、飲食、市民活動、買い物の回答が多くなった。

【評価②】 はと公園は、どのような公園のイメージが望ましいか

👉 ゆっくりすごせる公園の回答が多かった。

【評価③】 身近な公園には、どのような設備を望みますか

👉 トイレ、ベンチ・テーブルの回答が多かった。

【評価④】 駅周辺の先進的な公園には、どのような設備を望みますか

👉 カフェレストランの回答が多かった。

【評価⑤】 はと公園について気なること（問題・課題）

👉 トイレへの要望や、樹木の日影で暗い、夜間の治安が悪い等の回答が多かった。

令和7年度の市の取り組み

平塚駅周辺地区アクションプランの周知活動と活用促進

◆ 周知活動

- ・ 商店会への説明とパンフレット配布
- ・ イベントでのPR活動
- ・ SNSやメーリングリストへの配信
- ・ 市庁舎1階の行政情報ディスプレイへの掲載

◆ 活用促進

- ・ まちづくり相談窓口（月1回）の開設
- ・ 共同建替え支援制度説明会の開催（2/16予定）

夕暮れ夏祭りでのパネル展示



まちづくり相談窓口@まちなかベースきちきち



令和8年度以降の取組みに関する考え方

将来構想の実現に向けた「3つの柱」と方向性



POINT!

構想実現の屋台骨となる

3つの柱の取組みを一体的に捉え、
連携させながら進めていく

平塚駅周辺地区将来構想の実現